

令和3年度の研究（または活動）内容

2021年度も新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、人々の生活意識や行動の変化、教育や働き方、連携や交流のありかたなど、社会の変化に合わせた活動や調査が求められた。

そこで、コロナ禍、with コロナを考慮した、オンラインシンポジウムの開催、まちづくりやコミュニティ形成の実践的活動は小規模で感染予防に配慮した活動方法、それに関連した研究を行った。また、長期化するコロナ禍で希薄になりがちな、まちづくりやコミュニティ形成に関する課題に対し、持続可能な自律したまちづくり活動の推進事業として取り組むことを主眼としたことが特徴といえる。

1) 仙台市八木山地域（高齢化の進む丘陵地形の住宅地）を中心とした活動

・「仙台八木山防災連絡会」では、教育機関での防災授業や地域活動参加と意識に関する調査、SUNTORY 東北サンさんプロジェクトみらいチャレンジプログラムに「若者や子育て層の力引き出した地域防災・地域づくり体制構築」のテーマで助成を受け、防災キャンドルナイトやぼうさい井戸端会議の活動、ドローンを使用した調査、地域支援活動調査からケアパス作成を行った。また、障害がある方を地域でサポートすることを発信するためのケアパス作成に向けて調査を開始した。

・「八木山まちづくりプロジェクト」では、ハーブをツールとして住民などがつながる活動「八木山ハーブまちづくり」として太白区社会福祉協議会から助成を受け、with コロナ時代の活動を模索し、屋外サロン、少人数制の交流イベントを実践した。今年度は東北放送と、人々の健康福祉やまちづくりを意識した活動も協働で始まり、ハーブ植え付けの取り組みを住民と学生らと行い、ラジオやTVで放映された。

・「八木山テラス（金剛沢緑地愛護協力会）」、「動物公園駅東口花壇の整備（動物公園駅前ガーデン愛護会）」などの活動には、教職員・学生らの学外研修のフィールドとして参画させていただいた。

・コロナ禍で約1年半活動できなかった八木山地区医療介護連携の会「やぎさんネットワーク」は、2021年11月より幹事会を再開し、2022年度の助成金申請や研修会開催などを検討した。

・八木山市民センターと実施する地域の絆づくり事業「動物公園の壁に絵を描こう」には学生参画もあり、コロナ禍で中止されるイベントが多い中、親子から実施の要望が高いことが分かった。



自助共助推進のケアパス案



障害がある方の避難行動調査



動物公園の壁に絵を描こう



八木山テラスでの金剛沢緑地愛護協力会での活動



動物公園駅東口花壇の整備



ハーブをツールとして住民などがつながる活動「八木山ハーブまちづくり」

2) 仙台市秋保野尻地区（高齢化と人口減少の進む中山間地）を中心とする活動

「野尻いぐる会」の地域内外交流事業を身の丈に合った持続可能な活動となるよう、住民と秋保総合支所、本研究所で定例打ち合わせを行った。高齢化率の高い地域の感染予防は厳守のため、今年度は交流活動は実施せず、with コロナ時代を見据えた運営、次世代への継承について意見交換した。

3) 石巻市雄勝町（東日本大震災の津波による被災で人口減少の進む地域）を中心とする活動

2020年5月に雄勝硯伝統産業会館がオープン、道の駅となった。雄勝石産業の持続的主体的な運営や雄勝石産業を核とした地域づくりなどを課題とし、雄勝硯生産販売協同組合との「仮称」雄勝いしのお会議＋（プラス）」を実施し、採石や人材育成、組合運営など意見交換を行っている。

4) 登米市津山町（令和元年東日本台風による被災と交流人口減少等の課題を抱える地域）での活動

・道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（ランドデザイン策定）事業（2021年2月17日～2022年2月18日）として、学生も参画し、拠点施設（ハード面）の基盤調査（敷地および施設各部の現状・地盤沈下の現状・施設建物の問題点整理など）、拠点施設（ソフト面）の基盤調査（運営管理・情報基盤整備・防災防犯・利用者調査など）を実施し、構想をまとめた。さらに、復興活性化構想についてワークショップを開催し、報告書をまとめた。

・登米市の地域おこし協力隊と学生の意見交換はオンラインで実施した。学生から登米市津山町をテーマにした卒業研修中間報告を行い、その後に地域おこし協力隊の方々より質問やアドバイス、「地域（社会）の課題と解決；わたしたちに何ができるか」について意見交換を行った（2021年11月22日）。



各施設の現状調査



利用者聞き取り調査



ワークショップの開催



報告書

5) シンポジウムや報告会のオンライン開催

・『地域のくらし共創デザイン研究所』キックオフ会開催（2021年4月3日）

「東北工業大学における地域デザイン」(菊地良覚教授)、「地域を元気にするモノづくり」(中島敏教授)、「景観と地域特性を考える」(畠山雄豪准教授)、「地域で安全安心にくらす」(中井周作講師)による教育や研究活動の紹介の後、参加者と研究所に対する要望や意見などディスカッションを行った。

・時松辰夫先生追悼シンポジウム開催（2021年9月23日）

『時松辰夫の想い(思想)を学び、今後はどう活かすか』を語る会として、コーディネーターの菊地良覚教授により、第1部は「時松辰夫先生から学ぶ」のテーマで6名のパネリストに登壇いただき、第2部では登壇者と参加者全員による意見交換を行った。県境を越えた連携、開催継続や思想継承を望む声などが聞かれた。

・第7回東北工業大学2021製品安全シンポジウム開催（2021年11月13日）

中島敏実行委員長のもと「安全(製品安全・消費者安全)とSDGs」のテーマで開催した。目標12「つくる責任・つかう責任」に着目し、パネリスト6名(学生含む)より話題提供をいただき、その後、持続的社會構築を目指す社会において、環境負荷軽減、働き方改革、消費者教育など意見交換を行った。

・研究報告会：河内聡子講師（2021年3月17日）

学内公募研究「なぜ秋岡芳夫は“立ちどまった”のかー戦後日本の工業デザインにおける課題を背景として考える」の報告を研究所メンバーと関係協力者を対象に河内講師が行った。意見交換では、研究内容公開、研究継続や発展を望む声、各自の取り組みや研究との共通点や連携などがあげられた。



シンポジウム事前打ち合わせ



時松先生追悼シンポジウム(オンライン開催)



PLシンポジウム案内

6) その他：地域や企業からの問い合わせに応じた活動や調査、相談対応など

・宮城県公民館連絡協議会事務局より、宮城県公民館職員研修会の講師の依頼があり、「自律した持続的な地域デザイン」のテーマで講演とワークショップを実施した。

・色麻町からの要請を受け、「5か年計画等、及び、長期計画の考え方」に沿って検討会を行った。

・長町地域包括支援センターと太白区社会福祉協議会と協働での「長町地区高齢者生活実態調査」には学生参画による調査を実施した。

・仙台市若林区保健福祉センターより「健康で元気に暮らせる町 六郷を目指して」に関する相談を受け、2022年度、六郷小学校にてワークショップを開催予定である。

・仙台市危機管理局より「学生地域防災リーダー(SBL)」に関する相談を受け、学生参画に向けた対象地区の選定や募集に関して打ち合わせを行い、「令和3年度 仙台市地域防災リーダー(SBL)新規養成講習会」に学生10名が参画した。

・仙台市社会福祉協議会より、「仙台市社会福祉協議会との連携協約(協定)」による相談があった。その

後、ボランティア活動に関する取材に対応した。

- ・ケアコム株式会社（ケア環境研究所）より、「2021年度 東北ケア環境研究会」の開催があり、その後、2022年度の「コロナ禍での看護マネジメント共同研究」に関する相談を受けた。
- ・就労継続支援B型事業所希望の星より、「商品開発・商品パッケージ」に関する相談があった。
- ・河北新報より、「傾聴サロンやピアサポートグループの会主催者にコロナ禍による影響」に関する取材があり対応した。
- ・岩手県洋野町大野木工生産グループ事務局、洋野町の地域づくりに携わる「一般社団法人fumoto」の来学があり、今後の大野木工のありかたや洋野町の地域づくりに関する意見交換を行った。
- ・西和賀町北部地区活性化推進委員会と、令和3年度活動（研修視察、ビールまつりなど）、拠点整備事業の推進などの検討を行った。
- ・東北放送より、大学との新たな連携事業などに関する協議を行い、2022年にも新事業企画展示など実施予定である。
- ・八木山市民センターと八木山地域包括支援センターより、2022年度シニア世代を対象とした健康とオンライン活用（スマホ教室）に関する事業を行う予定である。
- ・熊本県伝統工芸館より、2022年度設立40周年事業に向けた企画運営（シンポジウム登壇や展示会協力など）に関する協議を継続する。
- ・みやぎ地場産品開発流通研究会より、ホームページなど情報発信や会の運営など協議を継続する。
- ・手しごとAKIUより、令和4年度事業「工芸のまち・秋保」の申請に向けた検討を行う。
- ・合同会社サポートサービスオレンジより、「傷病者搬送システム」事業の具現化や情報発信などに対する助言や協議を実施する。